

# 豪州Rhodes Ridge鉄鉱石事業 権益取得



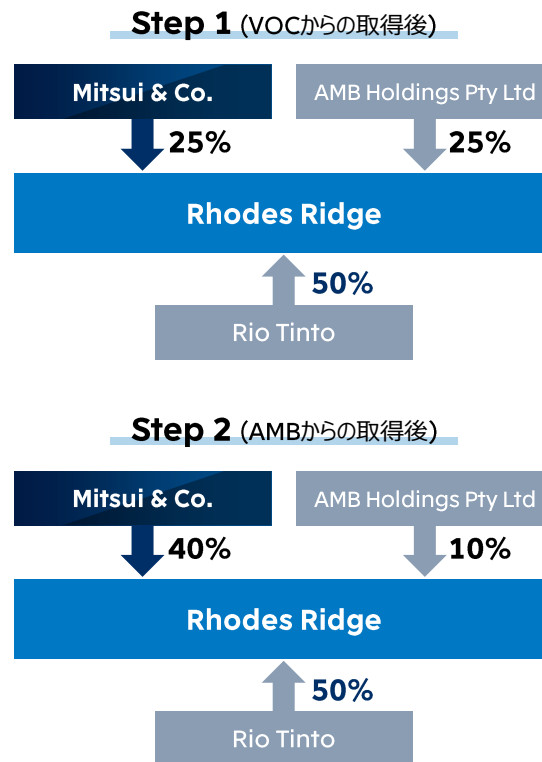
MITSUI & CO.

2025年2月19日

三井物産株式会社 (証券コード: 8031)

# 案件概要

取得対象	● Rhodes Ridge鉄鉱石事業 40%権益 (未開発鉄鉱床)
取得先	● ①VOC Group Limited (豪州): 25% ● ②AMB Holdings Pty Ltd (豪州): 15% *1
取得対価	● 5,342百万米ドル (①3,339百万米ドル、②2,003百万米ドル)*2
資源量	● 68億トン*3 (100%ベース、世界最大規模の未開発鉄床)
生産開始時期	● 初期スタディ: 2025年内に完了見込み ● フィジビリティスタディ、開発決定を経て、 2030年までに生産開始予定
生産数量	● 初期生産能力: 40百万トン/年規模 ● 将来的には1億トン/年を超える拡張ポテンシャル
当社収益性	● 基礎営業キャッシュ・フロー*4 1,000億円規模 (40百万トン)/年、2,500億円規模 (1億トン超)/年
参画形態	● Un-incorporated Joint Venture*5
品位	● 平均鉄分61.6%*3 (低リン分鉄石を含む)



\*1 基本合意締結。今後デューデリジェンスや交渉を経て最終契約を締結予定 \*2 印紙税の金額を含む \*3 Rio Tinto Investor Seminar 2023による \*4 当社前提に基づく  
\*5 すべての権益保有者は資産・負債に対する権利・義務を保有比率按分で保有。連結決算において収益・費用もすべて保有比率按分で認識

# Rhodes Ridge鉄鉱石事業の競争力

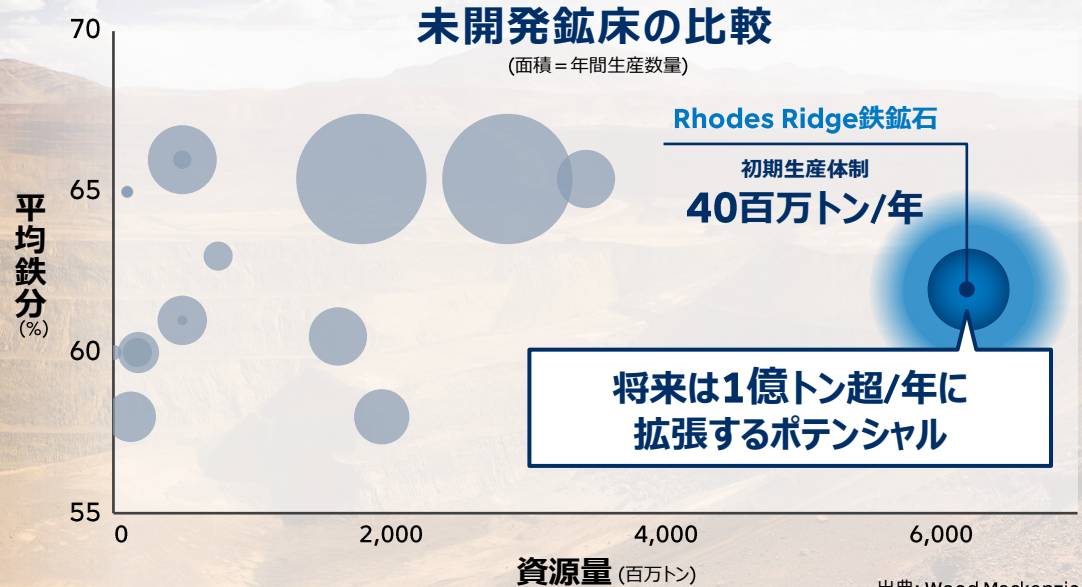
- ◆ 豪州に残された世界最大級の資源量を有する未開発高品位鉱床\*
- ◆ 信頼を長期間蓄積したパートナーとの提携を通じて安定供給を実現

世界最大規模の資源量

豪州最高クラスの鉄鉱石品位

実績あるオペレーターとの提携

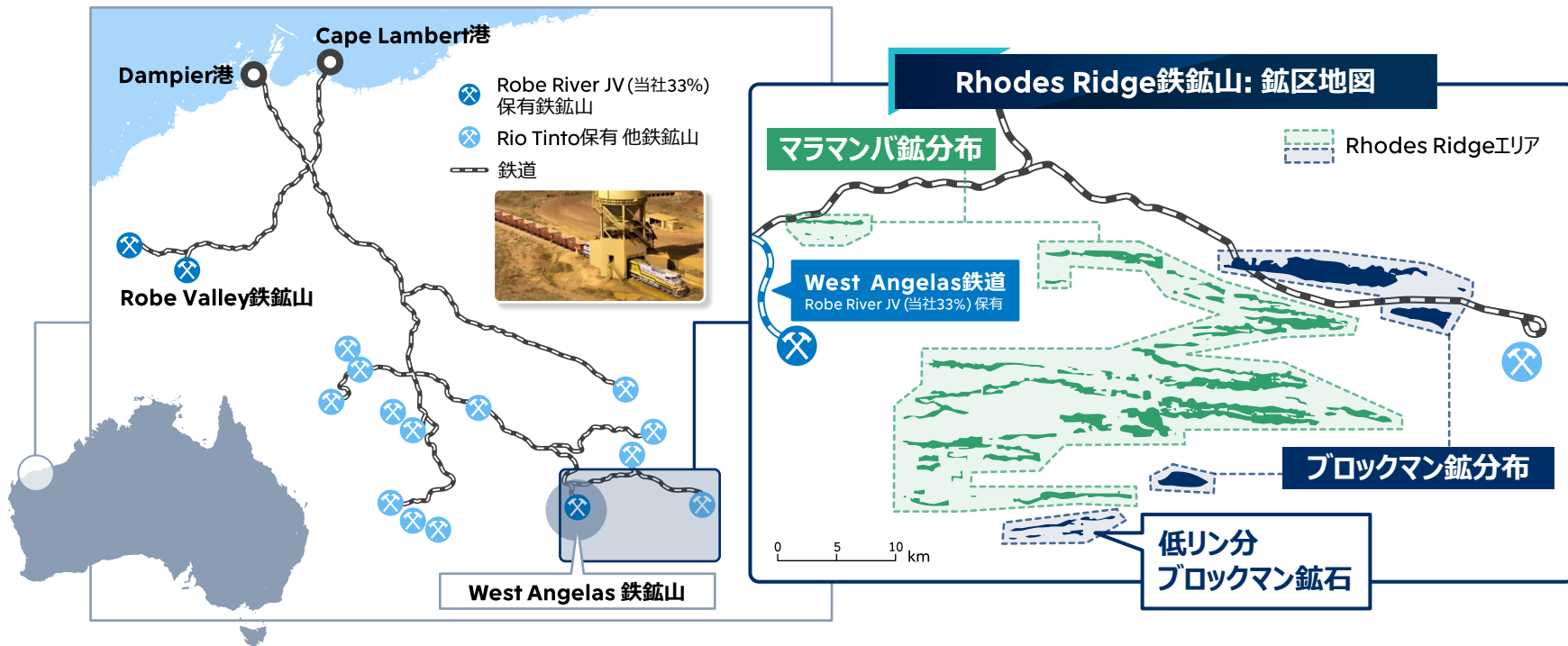
近接既存インフラ活用による  
低開発コスト・リスク



\* 主に中品位鉄を生産する豪州において、最高クラスの品位を有する

# シナジー1: 既存鉄鉱石事業のインフラ活用

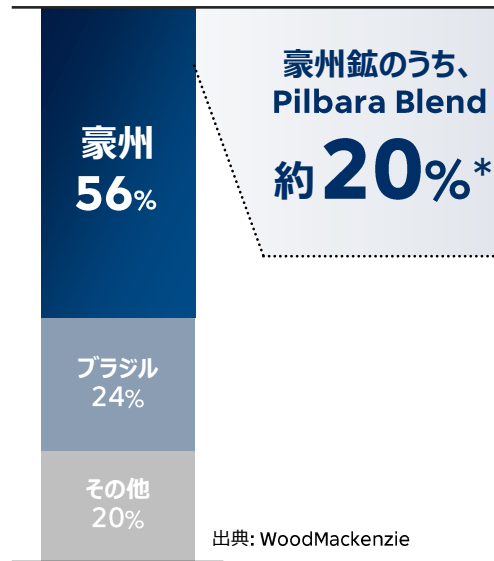
- ◆ Rio Tinto及びRobe River JVの既存の鉄道・港湾インフラを活用することで、初期開発費用を大幅に低減し安定した操業を実現
- ◆ 既存インフラの延伸により、鉱区南部の追加開発の可能性



## シナジー2: 他鉱石とのブレンド

- ◆ Pilbara Blendは、世界最大の取引量を誇る鉄鉱石のブランド
- ◆ Rhodes Ridge鉱の一部は、希少な高鉄分・低リン分（不純物）の鉱石であり、将来的にPilbara Blendの生産に不可欠

### 世界海上貿易量



豪州鉱のうち、  
Pilbara Blend  
約**20%\***

### Pilbara Blendとは

- 世界最大の取引量・流動性
- 主に、アジアの高炉において活用
- 生産過程におけるGHG排出が少ない（追加的な選鉱工程が不要）

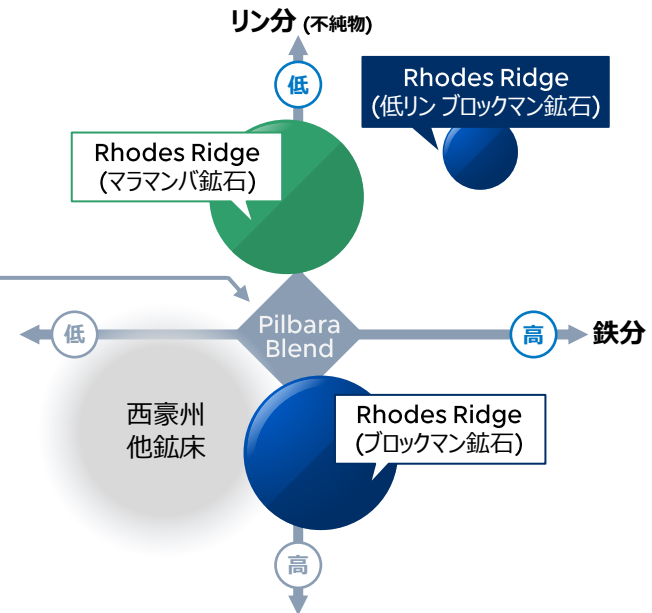


Pilbara Blend  
粉鉱



Pilbara Blend  
塊鉱

### Rhodes Ridge鉱の優位性

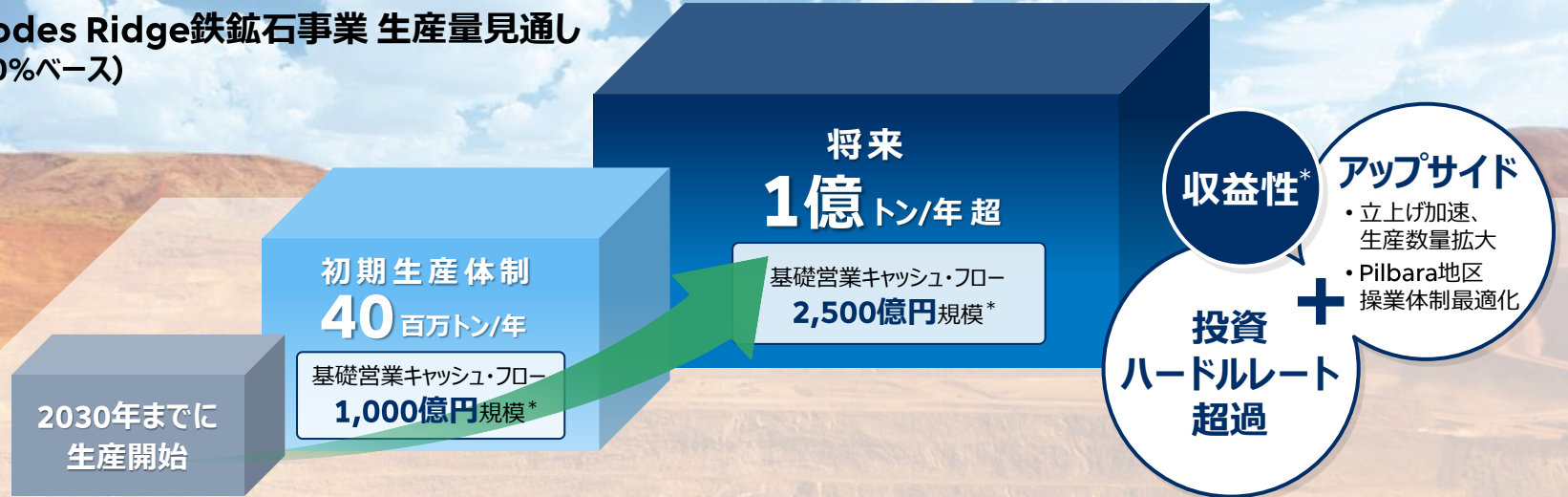


\* 世界の海上輸送量の約10%

# Rhodes Ridge 鉱山の生産数量見通しとキャッシュ創出力

- ◆ 2030年までに生産開始、初期は40百万トン生産体制、将来的に1億トン超の生産体制までの拡張を想定
- ◆ 当社基礎営業キャッシュ・フロー：40百万トン体制で1,000億円\* 規模、1億トン超体制で2,500億円\* 規模
- ◆ 当社も参画する西豪州Pilbara地区での操業体制最適化などを通じたアップサイド追求

## Rhodes Ridge 鉄鉱石事業 生産量見通し (100%ベース)



\* 当社前提に基づく。基礎営業キャッシュ・フローは当社持分の金額。投資ハードルレートの計算は権益取得費用を含む



# サステナブルな開発・操業に向けて

◆ オペレーターであるRio Tintoを中心に、サステナビリティを重視した開発・操業を予定

## 自然資本



水資源  
の保全



生態系  
の保護

## 気候変動



バイオマス燃料  
の活用



再生可能エネルギー  
の活用

## コミュニティ



先住民遺跡の  
保護



地域社会との  
パートナーシップ

# 鉄鉱石業界における三井物産

- ◆ 60年以上にわたる豪州での活動が結実し、本権益取得を実現
- ◆ これまでの知見・実績と鉄鋼バリューチェーンの低炭素化に向けた取組みを組み合わせ、更なる価値創造へ



## 当社の競争優位性



60年以上にわたる  
知見と実績の積上



資源メジャーとの  
長期かつ強固な  
パートナーシップ



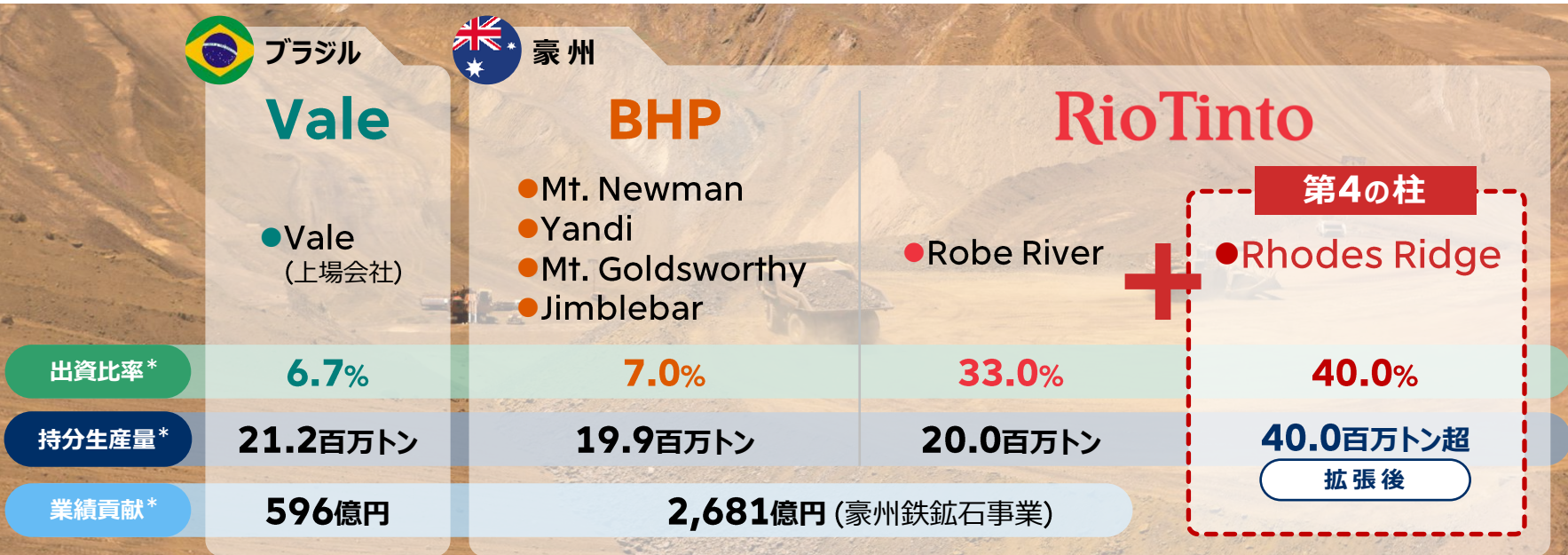
低炭素化に向けた  
取組み

- ・ Rio Tintoとの環境MOU
- ・ オマーン還元鉄



# 当社鉄鉱石事業の更なる盤石化

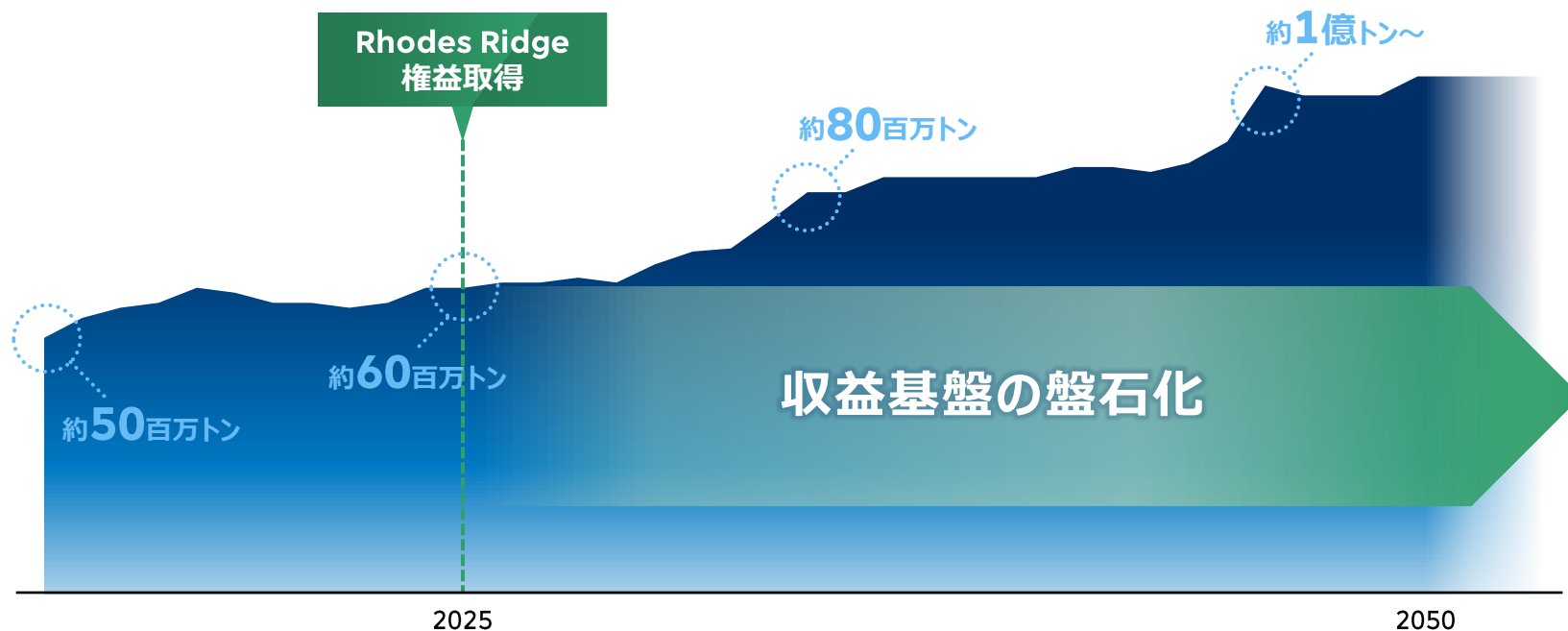
- ◆ ブラジルValeへの出資、BHP・Rio Tintoとの豪州での共同操業を通じ、3本の柱で競争力ある事業を展開
- ◆ Rhodes Ridge鉄鉱山40%権益を取得を通じ、Rio Tintoとの新たな協業機会を獲得。第4の柱へ



\* 2024年3月期実績。出資比率は2024年12月末時点。Rhodes Ridgeを除く

# 鉄鉱石 当社権益持分生産量\*

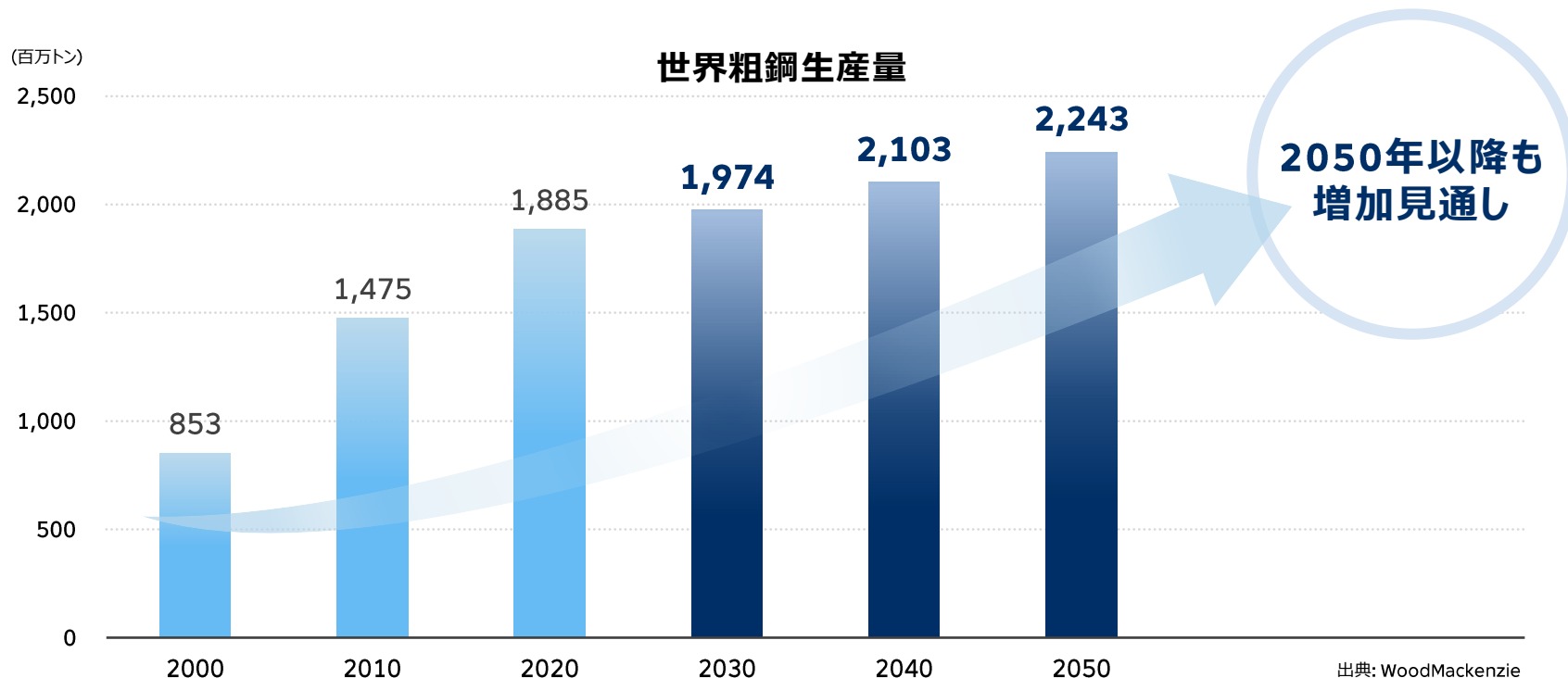
- ◆ Rhodes Ridge権益取得を通じ、鉄鉱石事業は超長期にわたり当社収益を下支えする見込み
- ◆ 本件に加え、BHP・Valeとの協業を通じた継続的な価値創造を追求



\* 当社鉄鉱石資産の権益生産量の合計

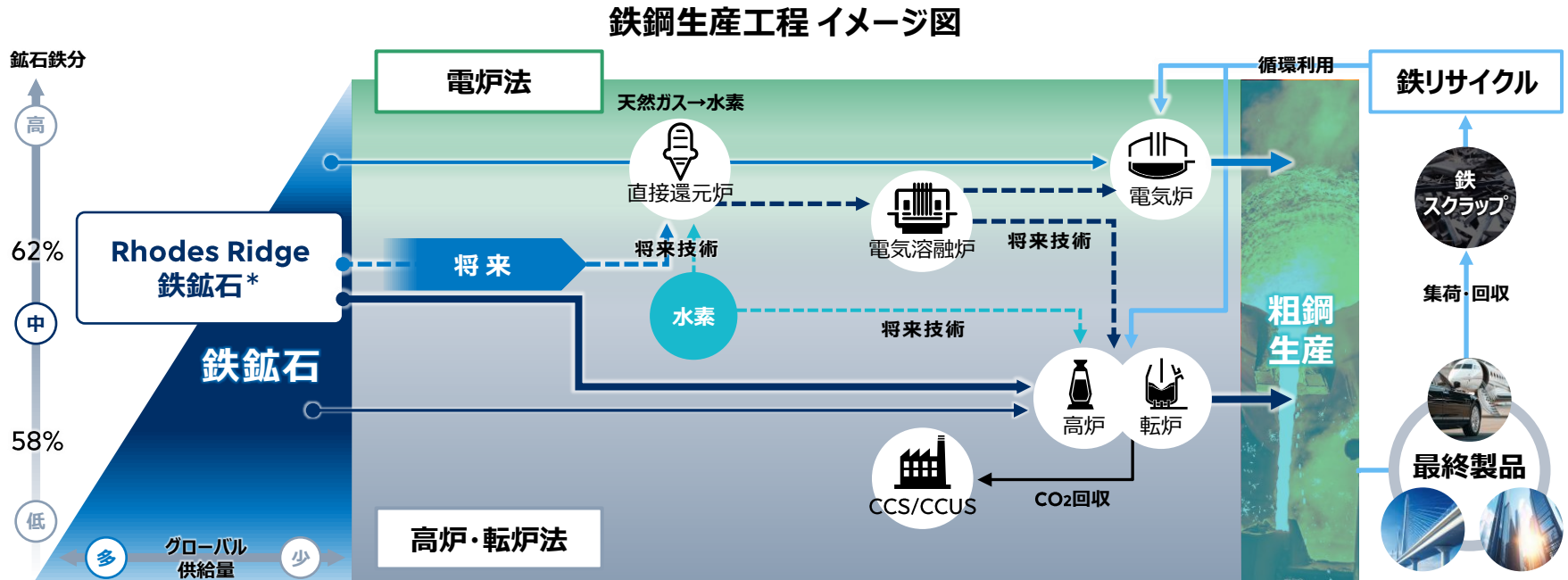
## 今後も堅調な鉄鉱石の需要環境

- ◆ 世界粗鋼生産量は経済成長に伴い、インド・東南アジアを中心に右肩上がりで見込み
- ◆ 電炉比率の上昇は予測されるも、高品位鋼材の生産には鉄鉱石が必要であることから、長期需要は堅調に推移する見通し



# Rhodes Ridge鉄鉱石の更なる可能性

- ◆ 製鉄プロセス低炭素化のため、海上貿易におけるボリュームゾーンの中品位鉱を電炉法で活用する製鉄技術の開発が進む
- ◆ 低炭素製鉄技術の進展により、Rhodes Ridge鉄鉱石\*の用途が拡大することが見込まれる



\* Rhodes Ridge鉄鉱石は、中品位鉱を主に生産する豪州の未開発鉱区として最高クラスの品位。また世界最大級の資源量を確認済。品位はイメージ

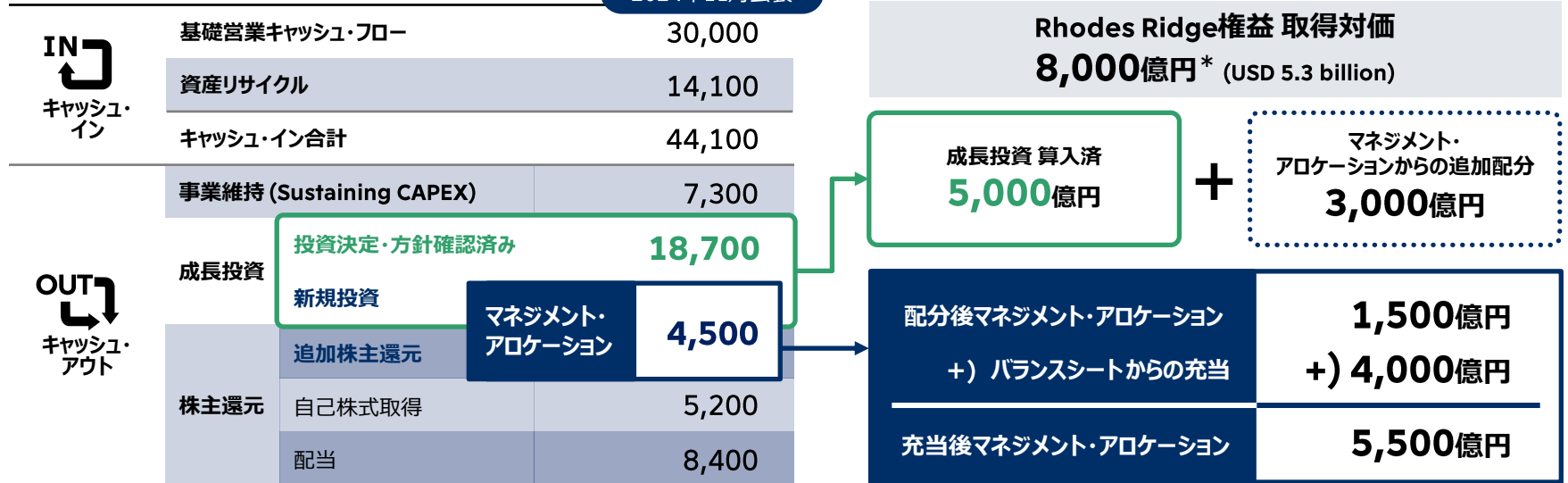
# キャッシュ・フロー・アロケーションへの影響

- ◆ 公表済キャッシュ・フロー・アロケーションにおいて5,000億円を算入済。3,000億円はマネジメント・アロケーションから追加配分
- ◆ マネジメント・アロケーションはバランスシートから4,000億円を追加充当、5,500億円に増額
- ◆ 権益取得に伴い借入を実行予定。Net DERは0.1程度上昇

## キャッシュ・フロー・アロケーション (中期経営計画2026 3年間累計)

(単位: 億円)

2024年11月公表



\* 印紙税の金額を含む

**360° business innovation.**



MITSUI & CO.